

意味:

逆転を生み出し、私たちの世界における神の性格と目的を明らかにする神の力の神聖な現れ。

短い意味: 天が地球を侵略し、美しいものを生み出すとき。

ルカによる福音書 4 - イエスは自分の使命と天の使命について述べています。これは常にイエスの使命です。貧しい人々に良い知らせを宣べ伝え、盲目な目を開き、抑圧されている人々に自由を宣言する。いつも。今後数か月間、聖書の中で彼がどのようにそれを行ったかを見ていきます。私たちはまた、彼が今、この場所で、私たち自身の抑圧と盲目と混乱の真っ只中に、どのようにそれを行っているのかについても見ていきます。

聖書は神が行った奇跡について語っていますが、神が行おうとしている奇跡についても語っています。彼がやってきたことは彼がやりたいことだ。彼はこれまでやってきたことを、まだやりたいと思っています。

“「主の御霊がわたしに宿っている。貧しい人々に福音を宣べ伝えさせるために、わたしを聖別してください。主はわたしをつかわして、囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告げ知らせ、打ちひしがれている者に自由を得させ、主のめぐみの年を告げ知らせるのである。」

ルカによる福音書 4:18-19 口語訳

自由さ = 送り出す、手放す、解放、赦免、完全な許し

囚人 = (戦争中の)捕虜、捕虜。aichme および halosis の派生語から。正しくは捕虜、つまり捕虜です。

一つ - 風と波 ルカによる福音書 8

“それから言われた、「よく言っておく。預言者は、自分の郷里では歓迎されないものである。よく聞いておきなさい。エリヤの時代に、三年六か月にわたって天が閉じ、イスラエル全土に大ききんがあった際、そこには多くのやもめがいたのに、”

ルカによる福音書 4:24-25 口語訳

1. イエスの力または能力を明らかにします - 彼は創造を担当しており、明らかに創造主と直接の関係にあります
2. イエスの性格を明らかにします。彼は混沌から秩序をもたらします。彼は悪い超大国ではなく、良い超大国です。

その後: 悪魔

彼らは奇跡を乗り越え、大きな問題の岸辺に引き上げられます。

“エリヤはそのうちのだれにもつかわされなくて、ただシドンのサレプタにいるひとりのやもめにだけつかわされた。また預言者エリシャの時代に、イスラエルには重い皮膚病にかかった多くの人がいたのに、そのうちのひとりもきよめられないで、ただシリアのナアマンだけがきよめられた」。会堂に

いた者たちはこれを聞いて、みな憤りに満ち、立ち上がってイエスを町の外へ追い出し、その町が建っている丘のがけまでひっぱって行って、突き落そうとした。”

ルカによる福音書 4:26-29 口語訳

暗闇に囚われていることが何を意味するのかを直感的に描いた作品。彼は完全な自主性を失ってしまった。家も仕事も家族も友達も自由もない。彼は絶望的に立ち往生している。彼は自分自身にとっても他人にとっても危険です。しかし、彼は弟子たちが持っていないものを持っています。弟子たちが船に乗っているとき、イエスが出てきて超自然的な救いの能力を実証したときの話に戻ってみましょう。弟子たちはどう反応しましたか？

“誰ですか？”

彼らは彼と一緒にしばらく過ごしていますが、まだ彼が誰であるかわかりません。聖書によれば、彼の兄弟たちは彼が誰であるかを知らなかったそうです。ゲラセネスの男の中にある悪魔の力はどのような反応を示すのでしょうか？

“いと高き神の御子イエスよ、あなたは私に何を望みますか？”

闇は光を見ると光を知る。闇は光を認識する。エペソ人への手紙 6:12 は “わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。”と言います。光と闇。そして闇は私たちの内側に隠れ、私たちを通して働くことで、私たちの世界を隠し、影響を与えます。ゲラセネスの男は単なるキャンプ場であり、暗闇がたむろして大混乱を引き起こす入れ物です。闇は彼を気にしません。ダークネスには人生の計画がありません。闇は世界の一部を恐怖に陥れるために彼を利用していません。しかし、闇は光を見ると光を知ります。

“イエスは彼に「なんという名前か」とお尋ねになると、「レギオンと言います」と答えた。彼の中にたくさん悪霊がはいり込んでいたからである。悪霊どもは、底知れぬ所に落ちて行くことを自分たちにお命じにならぬようにと、イエスに願いつづけた。”

ルカによる福音書 8:30-31 口語訳

「レギオン」はローマの兵士のグループの名前でもあります。イエスが捕虜を解放するために来たと言ったときのことを覚えていますか？その言葉は実際には捕虜を意味します。この物語はその原則をさらに重ねただけです。ゲラサ人の男は、これまで夢見ていたよりも大きな戦争の捕虜となった。

“ところが、その山べにおびただしい豚の群れが飼ってあったので、その豚の中へはいることを許していただきたいと、悪霊どもが願い出た。イエスはそれをお許しになった。そこで悪霊どもは、その人から出て豚の中へはいり込んだ。するとその群れは、がけから湖へなだれを打って駆け下り、おぼれ死んでしまった。”

ルカによる福音書 8:32-33 口語訳

この話の興味深い点は、ここではイエスがすべての意思決定権限を持っているということです。彼らが何をするか、どこへ行くかは彼が決めます。彼らは、人々の前で見せびらかしてきた力、ほら、私

たちは鎖を打ち破ることができる、ほら、この男に私たちがしてほしいことを何でもさせることができますが、神の力には匹敵しないことをはっきりと理解しています。

“飼う者たちは、この出来事を見て逃げ出して、町や村里にふれまわった。人々はこの出来事を見に出てきた。そして、イエスのところにきて、悪霊を追い出してもらった人が着物を着て、正気になってイエスの足もとにすわっているのを見て、恐れた。それを見た人たちは、この悪霊につかれていた者が救われた次第を、彼らに語り聞かせた。それから、ゲラサの地方の民衆はこぞって、自分たちの所から立ち去ってくださるようにとイエスに頼んだ。彼らが非常な恐怖に襲われていたからである。そこで、イエスは舟に乗って帰りかけられた。”

ルカによる福音書 8:34-37 口語訳

興味深いのは、悪霊の軍団と共存することができた同じ人々が、暗闇を支配する力を持つイエスのために自分たちの村に場所を作ることを想像できないということです。彼らは、混沌に秩序をもたらす者よりも、自分たちが知っている混沌のほうが快適だと感じます。おそらくそれは、豚がお金を稼いでくれるからであり、いざというときには自由が欲しいのですが、それが最終的に何を犠牲にするのかを心配しているからでしょう。

“悪霊を追い出してもらった人は、お供をしたいと、しきりに願ったが、イエスはこう言って彼をお帰しになった。「家へ帰って、神があなたにどんなに大きなことをしてくださったか、語り聞かせなさい」。そこで彼は立ち去って、自分にイエスがして下さったことを、ことごとく町中に言いひろめた。”

ルカによる福音書 8:38-39 口語訳

私は物語のこの部分が大好きです。イエスにとって、この男をツアーに連れて行く素晴らしい瞬間です。彼は、神ができることのビフォーアフターの素晴らしいコマーシャルです。彼はイエスが子であることの確固たる証人です。しかし、イエスは彼に弟子の一人になるように頼む代わりに、弟子を作るために彼を送り出しました。1クラスもなし。カリキュラムなしで。捕虜だったということ以外は何の資格もありませんでしたが、今は自由の身です。それでイエスが何をするか知っていますか？彼は、去る？彼は湖のほとりにあるこの奇妙な小さな村を去り、以前いた場所に戻ります。イエスは舟に乗り、嵐の中を渡り、人目につかない場所に停めて、一人の人を解放し、その人に話を聞かせるように命じ、そして舟に戻りました。イエスの奇跡のいくつかは「途中」です...彼がどこか別の場所に向かう途中で、盲目の男が彼に怒鳴ったり、女性がイエスのローブに触れたり、父親が子供のために助けを求めたりします...しかしこれは奇跡とは、あらゆるもの、そして他のすべてからの逸脱です。これは意図的なものです。これは、イエスが人里離れた道を離れ、一人の男を選び、二千の闇の勢力を滅ぼし、そして群衆の元に戻っていく姿です。神は単なる超大国ではなく、救世主なのです。神は常に物事を正しく探し求め、救い、整えようとしています。これは彼が起こした奇跡の物語であり、彼が今も私たちの中で、そして私たちを通してやりたいと思っていることを私たちに伝えます。

対照的に、私はこの物語を読み、類似点と相違点について聞きながら考えていきたいと思います。これはマルコの福音書からのものです：

“それから、彼らはカペナウムに行った。そして安息日にすぐ、イエスは会堂にはいって教えられた。人々は、その教に驚いた。律法学者たちのようではなく、権威ある者のように、教えられたからである。ちょうどその時、けがれた霊につかれた者が会堂にいて、叫んで言った、「ナザレのイエスよ、あなたはわたしたちとなんの係わりがあるのです。わたしたちを滅ぼしにこられたのですか。あな

たがどなたであるか、わかっています。神の聖者です」。イエスはこれをしかって、「黙れ、この人から出て行け」と言われた。すると、けがれた霊は彼をひきつけさせ、大声をあげて、その人から出て行った。人々はみな驚きのあまり、互に論じて言った、「これは、いったい何事か。権威ある新しい教だ。けがれた霊にさえ命じられると、彼らは従うのだ」。こうしてイエスのうわさは、たちまちガリラヤの全地方、いたる所にひろまった。”

マルコによる福音書 1:21-28 口語訳

この男は湖畔の目立たない村に住んでいるわけではない。彼はカペナウムにいる(事実)。彼は地下墓地で口から泡を吹いたり、身を切ったりしているのではなく、教会にいます。彼は裸ではなく、日曜日のベストを着ています。物語は表面的にはこれ以上異なるものではありませんが、その後は...”あなたがどなたであるか、わかっています。神の聖者です!” この男は私たちのゲラセン人の男とはまったく違うように見えるかもしれませんが、彼も捕虜です。彼はイエスが誰であることを正確に知っています。闇は光を見るとそれを認識します。そして光は常に、常に勝利します。

それでは、今日私たちは宇宙の戦いからの余波にどのように対処すればよいのでしょうか?おそらく、あなた自身の歴史の中で、それを感じた場所が見つかるでしょう。あなたは生死を賭けた戦いを見てきました。あなたは闇の存在を感じたり、光の勝利を見たりしたことがあります。私が話をする人のほとんどは、人生の中で、自分よりもはるかに大きな戦いの駒のように感じた瞬間を見ることができます。(話)

“また、わたしたちは神から出た者であり、全世界は悪しき者の配下にあることを、知っている。”

ヨハネの第一の手紙 5:19 口語訳

ダラス・ウィラード - 人間の状態の 6 つの要素:

思考、感情、決断 関係性

体

魂

弟子シップや霊的形成は、これらすべてをイエスという人物と目的に沿って方向づけることです。抑圧とは、これらのいずれかが闇に囚われていることです。私たちは自分の思考や感情に闇が現れるのを見て、私たちを閉じ込めたままにする決定を下します(ストーリー)。

人間関係は私たちを暗闇の中に閉じ込めてしまうことがあります。

私たちは肉体が暗闇に囚われているのを見ます。(ジューンティーンズ)。奴隷制度は常に、常に悪です。私たちの体は、それなしでは生きていけない物質の虜になり、それらの物質が私たちを支配するようになります。私たちは捕虜になります。

あるいは、ある種の魂の病気になることもあります。行き詰まったり、傷ついたり、真に自由になるのを待っている場所。

私たちは奇跡は神の使命の一部であると信じています。それは当時の神の使命であり、今も神の使命です。私たちにはイエスはいませんが、聖霊がここにおいて、私たちの間で動き、生き、働いています。イエスはこう言われました、

“よくよくあなたがたに言うておく。わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである。何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえてあげよう。”

ヨハネによる福音書 14:12-14 口語訳

“自由を得させるために、キリストはわたしたちを解放して下さったのである。だから、堅く立って、二度と奴隷のくびきにつながってはならない。”

ガラテヤ人への手紙 5:1 口語訳

つまり、当時の神の使命は私たちを解放するために奇跡を行うことであり、今の神の使命は私たちを解放するために奇跡を行うことです。そして神の使命には私たちも含まれます。

私たちは以下からの自由を信じています。

- 抑圧
- 間違った考え
- 私たちを束縛する人間関係 -薬物/依存症 -衰弱させる恥辱
- 慢性的な借金/貧困

照らす

解放する

教育する

協力する

1. あなたの人生の中で闇に囚われている部分を照らして下さるよう神にお願いしてください。思考、感情、決断、人間関係、肉体的な束縛、魂の病気。あなたが自由になる権利について信じてきた、または信じている嘘について具体的に神に尋ねてください。（私はアルコールや自分を傷つける人間関係、あるいは自傷行為や自殺、あるいは恥の考えに縛られているように感じます...）私の中の戦場の風景を見せてください。

2. 神にあなたを解放してくださいとお願いしてください。暗闇からの完全な解放。奇跡と自由の賜物を神に求めてください。

3. 自由を保つ方法を神に教えてもらいましょう。これが自由のスキルです。心を真実で満たしてください。あなたの魂を平和で満たしてください。あなたを鎖に繋ぎ止めたり、墓に戻らせたりするものを断ち切りましょう。（復興を祝おう！）

4. 自由を求める闘いであなたと一緒に立ってくれるよう誰かに頼みましょう。パートナー、友人、牧師、指導者... (再び、回復を祝う)